遠藤ゼミの活動など

「子どもとおとなが育つ教育福祉」というテーマでゼミ活動をしています。

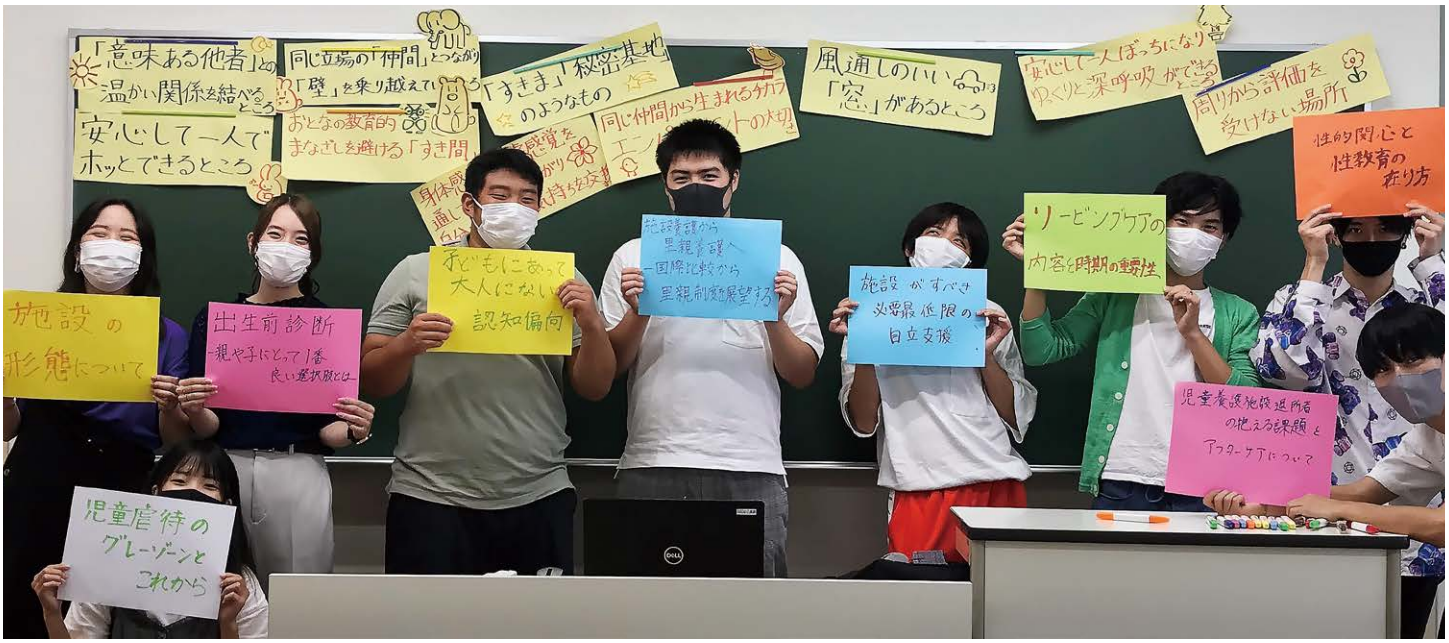
「教育福祉」は、子ども福祉（児童福祉）を利用する子どもをはじめ、子どもたちの育ちをうながしていく条件づくりを目指しています。私が研究対象としているのは児童福祉施設、特に家族と離れて子どもが暮らしている乳児院や児童養護施設です。保育士や児童指導員（教育・心理学部を卒業するとなれる）が、これらの施設で働いています。学校のようにこれまで蓄積されてきた知識や技術を順序だてて学習を進める形ではなく、日々の暮らしのなかでゆったりとその子のペースでじっくりと生きる力を身につけていくために、保育士たちが子どもたちの生活に寄り添い、励まします。子どもが自分を大好きになり、それと同じように周りの人たちのことも大好きになれるように働きかけます。

私のゼミでは、子どもの貧困や虐待によって家族と離れて暮らす子どもたちのための安心できる環境を検討しています。施設見学として数々の施設に出かけ、学生たちは「これ」と思った施設にボランティアやアルバイトとして子どもたちとの関わりを始めていきます。また、ゼミの課外活動として、いくつかの現場と学生を「つなぐ」ことにも取り組んでいます。全国的な養護問題の研究会にゼミメンバーとともに参加して、多くの実践者や研究者と出会い、つながり、学びます。さらに、ゼミの卒業生と学生をつなぎ、教育福祉問題研究会を行います。乳児院や児童養護施設、児童心理治療施設などに就職した卒業生を招き、学生の率直な意見や疑問を身近な先輩にぶつけて理解を深めています。

エントランス（待合室）の学生作品展示

以下、卒業生との交流テーマです。
「ことばは話せなくても、身振り手振りを共有して、気持ちをつなぐ」（乳児院）
「おうちから離れて暮らしていても、施設で楽しく笑い合って生活できる」（児童養護施設）
「施設から離れるまでに、つけておきたい生活力とは、自立を考える」（児童養護施設）など

そのほか、児童相談所のエントランス（待合室）に学生の作品を展示したり、里親開拓企画のお手伝いをしたりする形で現場とつながりあっています。



写真は、2021年４年のゼミメンバー。手に持っているのは「卒業研究テーマ」。黒板にはられているのは「子どもの居場所」を整理した項目。これらの項目を初めてみたメンバーは、「これ…ゼミのこと？」。居場所となるようなゼミで学びを深めていきたいですね。